

受験生は本格的なセンター対策を、高2・高1生はここからスタートしよう！

I. 全体講評

「全国統一高校生テスト」の国語の平均点は、高3・高卒生が一一二・一点（二〇〇点満点、以下同）、高2生が九二・八点、高1生が八二・四点であった。

高3・高卒生は来年一月の本試が間近に迫っている時期であり、今まで頑張ってきた諸君は結果として表れてきていることと思う。残念ながら不本意な結果となってしまった諸君はここからは、センター試験対策を本格的に始めよう。幸いなことにセンター試験の過去問はたくさんある。正解の根拠を考えながらしっかりと解くことで、まだまだ得点力は伸びるはずである。毎日の勉強にセンター試験の演習を必ず組み込みこむようにしよう。

分野で見ると、現代文についてはまずまずの結果であったが、古典の得点が伸びなかった。だが、古典は古典文法や古語、句法や重要漢字などの基本事項を身につけて、問題演習を繰り返せば、現代文以上に大きく伸ばせる。古典の結果がよくなかった諸君は必ず今月中に基本事項を身につけ、センター試験の過去問演習を徹底的に行おう。

一人一人で成果は異なるが、受験前のこの時期

に自己目標とした得点に近づけたかどうか、得意分野と不得意分野のバランスはどうだったか、時間配分に配慮できたかどうか、そうしたことに注意して結果を見直し、冬に向けての学習にしっかり生かしていつてもらいたい。

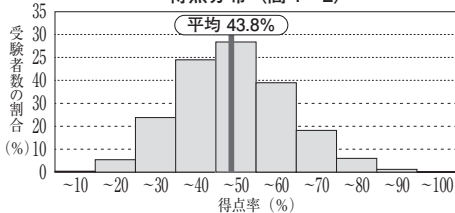
高2生と高1生は、数字を見ると上級学年との得点の差は歴然としている。本テストを体験したことでセンター試験とはどのようなものが実感できたことであろう。

分野ごとの留意点では、現代文の読解の基本は評論も小説も同じで、文中の根拠に基づいて考えることが何よりも大事である。頭で理解するだけでなく、実践的な演習を繰り返すことで体験的に会得することが大切だ。今回特に現代文の得点の低かった人は、間違えたところをよく見直し、解説冊子やIIの大問別分析を参考に、どうすればよかったのかをしっかりとつかんでほしい。

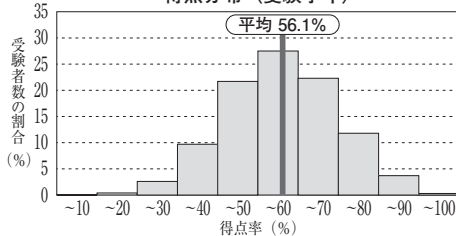
古文・漢文については、高2生と高1生は受験生以上に現代文の出来との差が大きい。これは、現段階では古文・漢文の知識がほとんどないことを意味する。言い方を変えれば、古文・漢文は、文法、句法、語の意味等、基礎知識の積み重ねがものをいう、ということである。このことを念頭において今後の学習を進めよう。

高2生・高1生は、今の段階での結果は気にす

得点分布 (高1・2)



得点分布 (受験学年)



■各学年の平均点、大問ごとの得点率

学年	平均点	第1問	第2問	第3問	第4問
高1	82.4点	50.5%	51.9%	33.3%	29.1%
高2	92.8点	54.9%	53.8%	40.4%	36.5%
受験学年	112.1点	61.9%	60.4%	53.5%	48.3%
全員	101.9点	58.1%	57.2%	46.5%	41.9%

る必要はない。しかし、一年後・二年後には、高得点をとれるようにする必要がある。現在の得点と志望校に必要な得点までの差を埋めなくてはならない。差を埋めるなら、早めのスタートが断然有利になる。ぜひ、ここから、本格的な受験勉強のスタートを切ろう！

Ⅱ 大問別分析

各学年の平均点、大問ごとの得点率は右の表に示した。

第1問 (評論)

文脈をしっかり把握したうえで、選択肢の微妙な違いに注意しながら答えよう！

得点率は、高1生が五〇・五%、高2生が五四・九%、高3生が六一・九%と、いずれの学年も五〇%を越えた。また、学年が上がるにつれて、得点率が高くなっており、ほぼ順当な結果になったといえよう。設問形式はセンター試験に準拠したものだから、この形式の設問の解き方への習熟度の差が得点の差になっているといえよう。

本文は近年のセンター試験で多く出題されているインターネットをはじめとするメディア論として見ることができ、現代のめまぐるしく変化する情報化社会をどこまで対象化しているかがポイントである。

設問ごとにみるなら、問5の正答率がどの学年も二〇%を切っており、問6の(ii)も正答率が低く、高1・高2生で三八・〇%、高3生で四七・

〇%となっており、学年によって大きな開きがあった。

問1の漢字問題は好成績だが、(ウ)の「全盛」と同じ漢字を用いた正解が④「盛大」であるのに対して、②の「勢力」を選んだ受験者も多かった。

問2は、高1・2生の正答率の低さ(五五・三%)が目立ち、誤答では②とした者が多かった。筆者は何と何を比較しているのかを、傍線部周辺だけではなく文脈全体からしっかりと把握しなければならぬ。「夢想」が忘れられているという筆者の主張の核をしっかりとつかんで、選択肢を検討していきたい。

問5は高3生で一九・一%と、今回の最低の正答率を示している。「症状(的)パートナー」というなじみのない語句の意味がはっきり捉えられず、正答の「介護者的」という語句にとまどったためと思われる。本文の「主体のうちで機能不全に陥っているものを補う働き」をヒントにすれば、マークした者の多かった選択肢②が誤答であるとわかるだろう。

問6の(i)は正答率五〇%を越えているが、決して満足できる結果ではない。ここでは対比的な文脈をしっかり把握できるかが問われている。一方(ii)の正答率は問5について低い数値を示している。②④を選んだ者が多いが、センター試験特有の各選択肢の微妙な違いに注意する慎重な姿勢を身につけたい。

第2問 (小説)

間違った「深読み」選択肢に騙されないように！ 模試の復習は完璧にしよう！

今回は高1生から高3生まで幅広く受験しているもので、得点率にも学年によって差ができていた。高1生が五一・九%、高2生が五三・八%、高3生が六〇・四%と、やはり、勉強量の差は明らかで、各設問も概ね高3生の方が高1・2生よりも一〇%ほど正答率が高かった。

ただし、例外もある。問2については、ほとんど差がなく、二二%台と出来が悪かった。誤答の中で最も選ばれた選択肢は③だが、選択肢の文中の「天涯孤独」という四字熟語について正しく理解していなかったと考えられる。語彙力は現代文ではとても大切である。意味があやふやな語に出合ったら、こまめに辞書を引くことを習慣にしよう。また、この設問の正答率が低かったもう一つの原因として、選択肢③は、正解選択肢②よりも「深読み」をしている選択肢に見えて、「正解っぽい」と判断して選んでしまったことが考えられる。当然、「深読みしているものが正解」というものではない。(こうとも考えられる)というような、本文に書かれていないことを勝手に想像してはいけない。小説といえども、あくまで本文にその根拠があるかどうかで判断する。当たり前ではあるが、小説の場合、やりがちミスなので注意しよう。

問5は解答が最もばらついていた。確かに本文全体の内容を含んでいるので、正誤の判断がしにくい問題ではある。問5は問2から問4までの内

容を踏まえて出題されることが多いので、時間が許せば前の設問に戻って頭を整理するのも有効である。

「小説はなかなか点数が伸びない」と考えて、小説の対策が後回しになってしまっている人がいるかもしれない。しかし、しっかりと対策をしておきたい。きちんと対策をすれば必ず点数は伸びる。まずは、受験した模試の復習を綿密に行なってもらいたい。解説を熟読し、納得がいくまで確認することだ。結果的にそれが最も時間を無駄にしない勉強法であることは間違いない。

第3問 (古文)

人物の心情を本文に即して読み取ろう！

古文読解に必要な知識を身につけよう！

平安時代中期の物語『夜の寝覚』からの出題で、妻の妹と契つたことに気付いて中納言が苦悩する場面である。受験学年の全体の得点率は五三・五％であるが、高1生は三三・三％、高2生は四〇・四％と、受験学年と大きく差が開いた。

問1の語釈問題では、「難し」や「はづかし」など重要語句の意味は選択肢吟味の決め手になつたようであるが、(ア)の反語「か」は特に正答率が低く、高1・高2生では二割以下しか解釈できていなかった。

問2は文法的説明の問題で、受験学年では八割程度、高1・高2生でも六割の正答率があり、比較的よくできていた。誤答でやや多かったのは「たまひてける」の「て」で、動詞の活用語尾としてしまっている。品詞分解を正確にできるよう

にしてもらいたい。

問3は主体と心情説明の問題で、主体は全学年九割以上が正しく捉えられていた。心情は「同じ麓の草」の比喩がつかめず、特に高1生・高2生では④への誤答が三割近かった。傍線部に比喩がある場合、指し示す内容と比喩との共通点をしっかりとらねばならない。

問4は中納言の和歌における心情説明の問題で、これは正答率四割を切り、誤答も分散した。特に多かったのは誤答③で、高1生・高2生では誤答が、正答の率を超えてしまった。③はまるで死を覚悟したような内容で、本文に述べられていない。本文から逸脱する言い過ぎを含む選択肢には注意しよう。

問5は対の君の心情説明の問題で、受験学年で四割、高1生・高2生で三割ほどの正答率で苦戦している。誤答で多かったのは①と⑤であるが、どちらも中の君と中納言の仲介を受けることを受け入れた内容になっており、本文とは合致しない。傍線部の前後から、問題の表面化を避けようと中納言を拒否しようとする対の君の心情を読みとろう。

問6の内容合致問題は、全学年で四割、五割強の正答率であった。特に高1生・高2生で誤答がやや多かった①と⑤は、本文に書かれていない内容を含むものである。選択肢を読んでいるとそのようなことが書かれていたような気がしてくるのであろう。選択肢と本文の該当箇所を照合して、確認する作業を怠らないようにしよう。

冒頭でも述べたが、今回の結果は、受験学年と

高1生・高2生では大きな得点差がついた。この差は現代文の差よりずっと大きい。古文は、覚えるべき知識事項を身につけていかどうかで出来が決まる。今回、古文の結果が悪かった諸君は、重要古語・古典文法などの知識事項を早めに身につけよう。

第4問 (漢文)

句法の知識に従って、対照的な例話の違いを読み取ろう！ 知識は集中して覚えてしまおう！

洪邁の『容齋隨筆』からの出題で、君主の人材登用について二つの例を挙げて説いている。得点率は、受験学年で四八・三％、高1生で二九・一％、高2生で三六・五％であった。全体的に点数が伸び悩んでいるが、特に高1生・高2生は、句法や書き下しなど、漢文のルールを問う問題でも苦戦したようだ。

問1は語の意味の問題。(1)が「何如」、(2)が「居無幾何」で、重要語や慣用表現であったこともあり、受験学年で八割前後、高1・高2生でも六割前後の正答率であった。こういった問題で取りこぼしてはいけない。

問2は語の意味・用法と熟語の問題である。①の「興」は国が盛んになったこととして全学年で四割前後の正答率であったが、②の「難」は、選択肢の「論難」自体になじみがなかったのか、正答率は二割前後で誤答も分散した。「非難する」ではなく「難しい」に誤解した解答が目立つ。

問3は蕭何の心情説明の問題で、比較選択の

「如くは無し」の句法に注意し、曹参を自分の後任にすることに異存はないことを読み取る。受験学年では約五割の正答率があったが、高1生・高2生は三割程度で誤答も分散した。誤答で多かった②は異論がある内容であり、④は自分に相談してほしくないという内容である。句法の学習をすすめたい。

問4は理由説明の問題で、スパイに事実と逆の情報をつかませて、自国に都合のよいように趙括を將軍にさせたことを読み取る。三〇四割の正答率で苦戦している。スパイに意図的に情報を流しているのを読み取れているが、趙括をなぜ將軍にさせたいのかという意図がよくとれていない。

問5も理由説明の問題。これは二〇三割の正答率でさらに苦戦している。趙括の母の上書の背景には夫の発言があることも読み取れていない解答が、全学年で三割以上あり、また個人的に息子の名誉だけを考えている選択肢への誤答も目立ち、母親であることの先入観で解答を選んでいることがうかがえる。

問6は返り点と書き下しの問題。受験学年は正答率も四割を越えたが、高1生・高2生では二割強で、最もその差が出た設問である。使役の「使」がポイントとなり、使役で読んでいない③を選んだ受験学年は一割を切ったが、高1生・高2生では、使役で読めていないか、または使役がかかる動詞が的確でないなど、苦戦したようである。

問7は本文全体の趣旨を問う問題である。正答率は④であり、受験学年で四二・八%、高1生・高

2生で二六・〇%の正答率で、これも大きく差が開いた。曹参の登用は良く、趙括の登用は良しとしないその違いを読み取る。誤答で多かった④は、身内の評判を採用しないというもつともらしい内容であるが、趙括の母は登用に反対しており、身内の判断が正しかったのである。思い込みで解答を選ばずに、対照的な例を比較してその違いを検討しよう。

漢文は古文以上に、知識事項の担うところが大きい。覚えるべき重要事項は古文よりも少ないので、努力すれば結果は表れやすい。今回、漢文の結果が芳しくなかった諸君は、どこかで集中して重要句法・重要漢字などを覚えてしまおう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ

◇高3・高卒生の諸君は、今回のテストでこれまでの学習成果を実感することができただろうか。国公立の二次試験や私大で国語が必要な受験生は、二次・私大対策にも取りかかっている時期であろう。だがセンター試験のレベルの問題に手応えが無いまま二次・私大対策に突入しても思うような成果は出ない。センター試験レベルの力を固めることは、国語では他教科以上に二次・私大対策に直結する。並行して志望校の過去問研究を進めながらもセンター対策は忘れずにこれからの学習を進めてほしい。

今回の模試で思うような結果が出なかった諸君

も、今回の成績に落胆せずに学習を続けてほしい。努力を継続することが何よりも大切である。基礎固めが終わったとしてもそれが即座に成績に現れるわけではない。これまで培った基礎力をベースにこれからの学習を重ねることで、今後の模試、さらには本試で一気に結果を出すことも可能となる。緊張感をもって臨みたい。

また、センター試験の国語を考える上でポイントとなることに「時間配分」と「漢文」がある。八〇分という時間の制約の中で効率よく問題を解くためには、自分なりの時間配分や解く順序の工夫が必要だ。これから本格化する過去問演習の際に、意識してほしいことである。

また、漢文は暗記項目が多く、努力が必ず得点に結びつく分野である。大問を解く順序は問われないが、漢文(第4問)を効率よく解き、現代文や古文に時間を回すことを意識してほしい。

時間配分を制することがセンター試験の国語の得点の最大化につながることを肝に銘じて、残された時間を有効に過ごしてほしい。

◇高2生で、既に本格的な受験勉強に入っている諸君は、とにかくまずは、漢字・語句・古文単語・文法・句法など、必要な基礎知識の習得と拡充に努めよう。読解力の強化、センター試験の問題に対応できる体系的な解法の習得など、学ぶべきことはたくさんあるが、そもそも高度な読解力は、十分な基礎知識がなければ本物にはならない。それをよく自覚して、基礎力の充実に向けた学習を粘り強く積み重ねてほしい。そのうえで余裕のある諸君は、センター試験に特有の解法を意

識した学習にもチャレンジしていくとよい。

◆これから本格的な受験勉強に取り組む人へ

受験勉強はまだこれからという高2生は、受験は目前だという意識を強くもって、まずは基礎知識の習得に努めることが大切である。

諸君の中には、今回のテストを受験して初めてセンター試験とはどういうものかを知った人も多いことであろう。センター試験が、高度な読解力の問われるテストであることも感じられたであろう。文章は、難関国公立大学の二次試験や難関私立レベルの内容として通用するものである。高2の秋の段階でこうした現実が認識できたということは、実に幸運なことなのだ。ここをスタートラインとしてぜひやるべきことを始めよう。

まずは、漢字・語彙・古文単語・文法・句法といった基礎学習の充実をめざしたい。基礎知識が直接問われることは少ないが、知っていなければ正確な読解ができず、問いにも答えられない。そのことをしっかりと認識して、土台作り⇨基礎事項を身につけることが大切である。今からスタートすれば、高3になる頃には実感が得られるはずだ。

高1生で受験した諸君は、どんな感想を持っただろうか。結果はともかくとして、一年生のこの時期に本格的なセンター模試にチャレンジできたのはたいへん幸運なことである。ここから本格的な学習のスタートを切ってもらいたい。

まずは基礎知識の習得を心がけよう。漢字・語

彙・古文単語・文法・句法など、覚えなければならぬことはたくさんある。そうしたものにじっくりと取り組み、自分のものにするのが、本格的な読解力の育成につながる。まだまだ時間的な余裕があるのだからそれを生かして、ぜひ、しっかりと土台作りを実践しよう。そのうえで、次のステップへ、センター試験に対応できる体系的な学習へと進んでいくとよい。